

類似薬の使い分け

症状に合った薬の選び方とその根拠がわかる **改訂版**

◆ 改訂の序	藤村昭夫	3
◆ 初版の序	藤村昭夫	5
◆ 本書の構成		6

第1章 降圧薬 ————— 大蔵隆文, 檜垣実男 18

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け	19	
1. 高血圧患者にまず行うべきこと	2. 高血圧の治療方針	3. 降圧薬治療
4. 併用療法	5. 系統間での使い分け	
◆ 各系統での類似薬の使い分け	29	
① β 遮断薬 (含む $\alpha\beta$ 遮断薬) … 29	② Ca拮抗薬 … 30	③ ARB … 31

第2章 抗不整脈薬 ————— 志賀 剛 33

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け	34
1. 不整脈治療の基本 2. 抗不整脈薬の分類 3. 不整脈別の治療方針	
◆ 各系統での類似薬の使い分け	40
① I 群抗不整脈薬 (Na チャンネル遮断薬) … 40	
② II 群抗不整脈薬 (β 遮断薬) … 43	③ III 群抗不整脈薬 (K チャンネル遮断薬) … 46
④ IV 群抗不整脈薬 (Ca 拮抗薬) … 47	

第3章 狭心症治療薬 ————— 竹内和彦, 渡邊裕司 52

◆ 疾患の概要と系統間での使い分け	53
1. 狭心症発作の制御における狭心症薬の使い分け	
2. 心血管事故に対する二次予防薬	
3. 急性冠症候群と安定狭心症の鑑別に基づいた治療薬の選択	
◆ 各系統での類似薬の使い分け	62
① 硝酸薬	62
② β 遮断薬	64
③ Ca 拮抗薬	66
④ 抗血小板薬	68
⑤ その他の狭心症薬	69

第4章 脂質異常症治療薬

— 安藤 仁 71

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 72
 - 1. 脂質異常症患者にまず行うべきこと 2. 脂質異常症の治療方針
 - 3. 高LDL-C血症にはスタチン 4. 高TG血症にはフィブラート
 - 5. 高LDL-C血症, 高TG血症, 低HDL-C血症のどれを優先して治療すべきか
 - 6. 薬物療法のフォローアップ 7. 脂質改善効果が不十分な場合
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 81
 - ① スタチン… 81 ② フィブラート… 84

第5章 糖尿病治療薬

— 宮本倫聡, 石橋 俊 85

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 86
 - 1. 糖尿病治療の目的 2. 糖尿病の病態評価 3. 経口血糖降下薬の適応
 - 4. 系統間での使い分け
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 100
 - ① スルホニル尿素薬… 100 ② 速効型インスリン分泌促進薬… 101
 - ③ α -グルコシダーゼ阻害薬 (α -GI) … 101 ④ DPP-4阻害薬… 101

第6章 消化性潰瘍治療薬

— 鷹取 元, 金子周一 103

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 105
 - 1. 消化性潰瘍とは? 2. 病態生理 3. 症状 4. 診断 5. 治療方針
 - 6. 初期治療 7. *H. pylori* 除菌療法 8. NSAIDs潰瘍 9. 維持療法
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 112
 - ① プロトンポンプ阻害薬 (PPI) … 112
 - ② ヒスタミン H_2 受容体拮抗薬 (H_2 RA) … 114 ③ *H. pylori* 除菌薬… 115
 - ④ 防御因子増強薬… 117

第7章 抗炎症薬 (NSAIDsを中心に)

— 秋山陽一郎, 簗田清次 120

- ◆ NSAIDsの概要 121
 - 1. 抗炎症薬とは? 2. NSAIDsの作用機序 3. NSAIDsの分類と使い分け
 - 4. NSAIDsの副作用
- ◆ NSAIDsの使い分けと処方の実際 130
 - 1. NSAIDsの適応症 2. 各疾患におけるNSAIDsの処方例

第8章 気管支拡張薬 相良博典 134

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 135
 - 1. COPD 患者に気管支拡張薬を使用する前にまず行うべきこと
- ◆ 各気管支拡張薬の特徴と類似薬の使い分け 137
 - ① β_2 刺激薬… 137 ② 抗コリン薬… 140
 - ③ テオフィリン薬（キサンチン誘導体）… 144
 - ④ 長時間作用型抗コリン薬 / 長時間作用型 β_2 刺激薬… 146
 - ⑤ 吸入ステロイド / 長時間作用型 β_2 刺激薬… 147

第9章 鎮咳薬 藤原真治 149

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 151
 - 1. 鎮咳薬の種類 2. 中枢性鎮咳薬（狭義の鎮咳薬，いわゆる“咳止め”）
 - 3. 末梢性鎮咳薬
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 162
 - ① 中枢性鎮咳薬… 162 ② ステロイド… 162 ③ 気管支拡張薬… 164
 - ④ ヒスタミン H_1 受容体拮抗薬… 166

第10章 皮膚疾患治療薬

i. 蕁麻疹治療薬 高田 実 169

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 170
 - 1. 蕁麻疹の定義：紅斑との違い 2. 蕁麻疹の病型分類と臨床的特徴
 - 3. 病型別の蕁麻疹の治療
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 174
 - ① ヒスタミン H_1 受容体拮抗薬… 174 ② 補助的治療薬… 178
 - ③ 副腎皮質ステロイドを用いる場合… 179

ii. 湿疹皮膚炎治療薬 大槻マミ太郎 180

- 1. アトピー性皮膚炎治療薬のグローバルスタンダード：ステロイド外用薬とタクロリムス軟膏 2. ステロイド外用薬の使用法 3. タクロリムス軟膏の使用法
- 4. 内服療法について

第11章 抗菌薬 ————— 相野田祐介, 平井由児, 戸塚恭一 198

- ◆ 抗菌薬を使う前に 200
 - 1. 戦うには、まずは敵を知ること 2. 大事なことはいつも一緒
 - 3. 自分の病院を知ろう 4. 感受性の読み方～MICを縦読みしない
 - 5. 治療のメルクマールを見誤らない
 - 6. 治療期間を設定しよう～過剰な投与は避けましょう～ 7. 抗菌薬の系統と種類
 - 8. PK/PD 9. 移行性の問題
- ◆ 各起因菌と抗菌薬の選択 213
 - 1. 感染症の有無と抗菌薬の必要性 2. 菌と治療薬の選択

第12章 睡眠薬 ————— 岡山雅信 223

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 224
 - 1. 不眠の訴えにまず行うこと 2. 不眠症の一般的知識 3. 睡眠薬の系統の選択
 - 4. 服薬指導
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 233
 - ① ベンゾジアゼピン受容体作動性睡眠薬…233
 - ② メラトニン受容体作動性睡眠薬…235

第13章 抗不安薬 ————— 三瀬順一 238

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 239
 - 1. 不安を訴える患者に行うべきこと 2. 症状の観点から
 - 3. 作用時間の観点から 4. 有害作用の観点から 5. 費用の観点から
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 246
 - ① ベンゾジアゼピン系 (BZD) …246 ② SSRI…248 ③ その他…249

第14章 抗うつ薬 ————— 近藤年隆, 林 有希, 岡安寛明, 下田和孝 251

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 252
 - 1. うつ病患者に対し治療開始前にまず行うべきこと 2. うつ病の治療方針
 - 3. SSRI・SNRI 4. 三環系・四環系抗うつ薬 5. その他
 - 6. ベンザミド系抗精神病薬
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 260
 - ① 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) …260
 - ② セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 (SNRI) …261
 - ③ 三環系・四環系抗うつ薬…263

第15章 認知症治療薬

新井平伊 266

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 267
 - 1. 認知症患者にまず行うべきこと 2. 認知症の治療方針
 - 3. 中核症状を先に治療するか, BPSD 治療が先か?
 - 4. 認知症に対する保険適用薬 5. 認知症に対する保険適用外使用薬
 - 6. 治療評価のポイント 7. 薬物療法のフォローアップ
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 272
 - ① コリンエステラーゼ阻害薬... 272 ② NMDA 受容体拮抗薬... 274
 - ③ 血管性認知症の治療薬... 278

第16章 抗てんかん薬

山形崇倫, 松本 歩 280

- ◆ 疾患の概要と診断, 治療 281
 - 1. 痙攣を起こした患者にまず行うこと 2. てんかんの治療
- ◆ 各抗てんかん薬の適応と注意点 289
 - ① バルプロ酸 (VPA: デバケン[®], デバケン[®]R, セレニカ[®]R など) ... 289
 - ② カルバマゼピン (CBZ: テグレート[®]) ... 291
 - ③ ソニサミド (ZNS: エクセグラン[®]) ... 293
 - ④ フェノバルビタール (PB: フェノバル[®], ノーベルバル[®]) ... 294
 - ⑤ フェニトイン (PHT: アレピアチン[®]), ホスフェニトイン (ホストイン[®]) ... 295
 - ⑥ エトスクシミド (ESM: エピレオプチマル[®], ザロンチン[®]) ... 296
 - ⑦ ベンゾジアゼピン系薬... 297 ⑧ 新たな抗てんかん薬... 299

第17章 骨粗鬆症治療薬

竹内靖博 302

- ◆ 疾患の概要と系統間での使い分け 303
 - 1. 骨粗鬆症治療の対象と目的 2. 骨粗鬆症患者全般に必須な治療
 - 3. 既存骨折をもつ患者に対する治療 4. 既存骨折のない患者に対する治療
 - 5. 椎体圧迫骨折急性期で疼痛の強い患者に対する治療
 - 6. 続発性骨粗鬆症の患者に対する治療
- ◆ 各系統での類似薬の使い分け 316
 - ① ビスホスホネート製剤... 316 ② 抗RANKL 抗体... 318
 - ③ SERM (ラロキシフェン, バゼドキシフェン) ... 318 ④ テリパラチド... 319
 - ⑤ 活性型ビタミンD₃製剤... 320 ⑥ ビタミンK₂製剤... 321
 - ⑦ カルシトニン製剤... 322

索引 324